

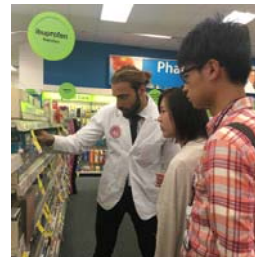
2016年8月4日から18日まで、昨年度から始まった米国のMCPHS (Massachusetts College of Pharmacy and Health Sciences) Universityへの短期研修に12名の学生が参加し、3名の職員が引率しました。午前是一般英語の授業、午後はアカデミックプログラム(全てMCPHS大学の先生によって英語で行われる)が実施されました。移動および週末を除く8日間の研修期間でしたが、①Dana Farber Cancer InstituteおよびBrigham and Women's Hospital (in Harvard Medical Area)の薬剤部見学、②St. Vincent Hospital (in Worcester) 見学、③コミュニティーファーマシーの調剤室見学、④コミュニティーファーマシーにてOTC薬について学ぶ、⑤MCPHS大学内模擬薬局にて処方解析実習およびMCPHS大学6年生とロールプレイング、⑥調剤実習(カプセル剤作製)、⑦メディシナルケミストリーに関する講義(2コマ)、⑧米国の薬剤師業務および薬学のカリキュラムについて(2コマ)、⑨プレゼンテーション2回(at Boston and Worcester Campus)、⑩MCPHS大学研究室見学およびキャンパスツアー、⑪MCPHS大学の教職員・学生や他国からの留学生との交流会(5回程度)等が実施されました。今後この経験を生かして勉学に励まれることを期待しています。



Prof. Kerrに有機化学の質問



MCPHS大学の皆さんと



薬局で、OTC薬の説明をMCPHS大学の6年生から受けている様子

■ 3年次生 奥田 葵

毎日が刺激的で充実した実りある2週間でした。英語や薬学の勉強だけでなく、ボストンの町並みや新たな文化に触れながら過ごしていくことで、様々な人と出会うことができました。また常に周りに英語のある環境にすることで、私自身の学ぶ姿勢がかなり変わりました。控えめで口数の少ない私が、講義のとき自分から一番前の席に座り発言することや、どこかに見学に行った際にはガイドのすぐ後ろにつ

いてお話ししたり質問したりすること、現地の学生と時間いっぱいまで楽しく会話できることだけでも大きいことだったと思います。

プログラムを通して、自分はまだまだ勉強不足だと痛感させられました。貴重な経験を糧に、これからより一層勉学に励みたいと思います。引率して下さった中村先生、天ヶ瀬先生、佐々木さん、2週間共に過ごした仲間、プログラムを支えて下さった方々、家族に感謝します。本当にありがとうございました。

■ 3年次生 多田 真綾

薬科大学で勉強をしていると、狭い世界で生きているような感覚に陥って寂しさを感じることがありました。他大学の友人達が留学をして海外に友人ができ、英語を話せるようになっていくのを見て羨ましく思っていました。留学に参加した目的は語学力の向上でしたが、当初予想していなかった大きな収穫がありました。それは、今自分が学んでいることは国際的に通用する知識だと気付けたことです。英

語で講義を受け、アメリカや韓国等の人とたくさん話をする事により、国によって違う言葉を使っているけれど薬学は世界共通なのだ実感することができました。自分は本当は広い世界にいたのだと思って嬉しくなりました。

今回の留学は、英語を使う機会を得たことに加え、薬学の勉強の意欲向上につながる大変有意義なものとなりました。このような機会を作ってくれた先生方をはじめ、たくさんの方々に感謝いたします。本当にありがとうございました。

■ 2年次生 宇野 莉央

2週間という短い期間でしたがアメリカでの生活はとても充実していました。出発前は英語が聞き取れるのか、英語での説明が理解できるのか、私の英語

がどれくらい通じるのか、など不安なことがたくさんありました。でも実際はたくさんの人との出会いや発見があり英語での生活を楽しむことが出来ました。

Worcesterキャンパスを訪れ現地の学生に薬局内を

説明してもらったことが一番印象に残っています。アメリカのOTCは先発薬とジェネリックが隣り合わせに並べられていたり、値段の高い薬は箱に入れられて陳列されていたりと日本とは違うことが多かったです。説明して下さった学生はたくさんの知識を

もっていて1つ尋ねるとその何倍もの答えを返して下さり、私も日本のことについてもっと興味を持ち知識を増やさなくてはいけないと思いました。アメリカの医療機関の様子を直接目で見て肌で触れ感ることができ、貴重な経験になりました。

くらつ ゆみこ

■ 2年次生 倉津 佑実子

日本に帰って来てまず初めに思ったことは、もっと英語を勉強したいということでした。他国の学生と話をするとき、買い物をするとき、授業中に先生に質問をするときなど、自分の話す英語が相手に伝わった瞬間、世界が一気に広がるのを感じたからです。そして中国や韓国の学生が薬学について英語で流暢に話しているのを間近で見て、私もこの土俵に立ちたいと思いました。

また、留学中は授業を受けた後、毎日時間を惜しんで観光に出かけました。ボストンの歴史ある街並みを見たり感じたりすることは驚きと感動の連続でした。沢山の英語に触れて、沢山の新しい発見があって、毎日クタクタでしたが、達成感でいっぱいでした。今回の経験を活かして、他国の学生と対等に渡り合えるようように、英語にも薬学の勉強にも励んでいきたいと思います。ありがとうございました。

■ 2年次生 坂口 雅弥

アメリカに行って薬剤師の違いを目の当たりにした。アメリカの薬剤師は、プロトコールに則り疑義照会を経ずに注射や処方箋の修正ができ、テクニシャンと仕事を分担しているため余裕があった。アメリカの薬剤師は仕事に誇りを持ち、その見返りも貰い、病院内でも地位が高い。また治療費が高いため入院患者、通院患者ともに数が少ない。アメリカ

を手本にして良いところは吸収していけば、日本できっとよりよいものをつくれるに違いない。他には、日本ではまだやったことのないことを、初めてアメリカでたくさん経験した。その中で一番記憶に残っているのは処方箋を作って服薬指導をするシミュレーションだ。処方箋を作る手順、実際に患者に何を伝えればいいのか考えるいい機会だった。今後自分が職場に立った時、アメリカで得た経験を生かせるのだと考えると、未来が楽しみになった。

■ 2年次生 清水 勝

私は今まで一度も海外に行ったことがなく、今回のこの短期留学制度を使って海外に行くのが初めての海外渡航でした。始めは初めての地に行くことへのドキドキと、ほとんど英語を話すことができないことへの不安でいっぱいでした。しかし、実際はMCPHS大学の先生方や、現地の人達は私が想像していたよりも親切に接して下さったので、自分の英語力の不安は一瞬で吹き飛びました。また、引率の先生方が何もわからない私達をボストンの色々な所に

連れて行って下さったのでとても充実した14日間を過ごすことができました。私の中で1番思い出に残っていることは、ボストンレッドソックスの本拠地であるフェンウェイパークでレッドソックスの試合を観たことです。私自身が野球サークルで野球をしているので、本場の野球を観ることができて感激しました。今回のMCPHS大学への留学の中で知らないことやわからないことをたくさん発見することができ、自分の至らなさを痛感することができました。これからは今回の留学のことを生かして色々なことに挑戦していきたいと思います。

■ 2年次生 中野 友絵

私は、留学に行ってもよかったと思う。印象に残っていることが3つある。1つ目は、ボストンでの授業を受けて、自分自身が日本の医療や薬のことについてあまり知識がないことに気づいた。授業ではボストンのことについてたくさん学ぶことができたが、日本のことを聞かれた際に詳しく答えることができなかった。これを機にもっと勉強しようと思った。2つ目は、英語を英語で説明するということが難しいということである。日本の英語の授業では

聞かれたことを日本語で答えるだけだった。しかし、アメリカでは聞かれた英単語の意味は英語で答えなくてはならないし、意味がわからなくて質問した英単語も英語で説明される。これによって日本語と英語のニュアンスの違いを感じることなく、本来のニュアンスで語彙を増やすことができた。最後に、現地の色々な人と交流したり2週間過ごした仲間ととても仲良くなることができた。勉強という本来の目的に加えて、観光に行ったり、ボストンでの生活をしっかり満喫することができた。とても意味のある留学だった。

■ 2年次生 太田 千佳子

この留学プログラムに参加しようと思ったのは自分の英語のレベルを試したいと思ったのがきっかけでした。英語での授業や現地でのコミュニケーションを通して感じた、伝わる喜びと言葉にできないもどかしさは今後の英語学習の糧になりました。病院見学や薬局見学では、話してもらうこと全部を理解することはできませんでしたが、見聞きするものす

ひろき

■ 2年次生 西口 大生

英語にも自信がなかったので出発前は不安でいっぱいでした。でも、英語は全部が分からなくても、分かる単語を拾っていくようにすると、徐々にコミュニケーションがとれるようになり、楽しくなりました。授業では米国の薬学事情や医療に関することを学びました。病院見学や薬局見学ではたくさんの発見がありました。1つだけ挙げれば、米国ではシートタイプの薬は病院でしか使われず、薬局では

べてが新鮮でした。それと同時に日本ではどのようになっているのかと疑問に思うことも多く、日本の薬学のことをもっと知りたい、勉強していかないといけないと思うようになりました。

最後になりましたが、引率して下さった3人の先生方や今回の留学に関わって下さった方々に感謝致します。また協力しあいながら過ごした11人の留学メンバーにも感謝します。この留学で得た糧を将来に活かせるように努力していきます。

使われないことなどです。休みの日や平日でも授業が終わればフリーダムトレイルを歩いたり、ケンブリッジに繰り出してショッピングをしました。ボストンの街並みはとても美しく、そこで過ごすだけで特別な気持ちになれました。

今回の留学では薬学に関する興味が大きい刺激され、とてもよい経験ができました。引率とともにいろいろと企画してくださった先生方には感謝してもしきれません。今回の経験をこれからの学業に生かしたいと思います。



模擬薬局でMCPHSの6年生と一緒に実習を受けている様子



Prof. Kerrのプール付き豪邸で

■ 2年次生 福井 真優

まゆ

アメリカに行くのは初めてで、英語が通じるか不安でしたが、アメリカに着いてみると、見るもの、食べるもの、聞こえてくる英語のシャワーなど興味深いものが多く、不安が楽しみに変わりました。私達が滞在した地区は、ハーバード大学の医学大学院、アメリカ国内屈指の大病院、世界トップレベルの製薬企業の研究施設などが所狭しと立ち並んでいて、薬剤師を志す私達にとっては、ただ歩いて回る

だけでもわくわくする街でした。平日は盛り沢山のプログラムが全て英語で行われ、自分の英語力のなさを感じることもありましたが、ゆっくり話してもらったり一生懸命聞いてもらったりしたのが嬉しかったです。土日は教授のプール付きの豪邸でのパーティーに参加させてもらったり、野球観戦を楽しんだり、アメリカの文化に触れてリラックスできました。最後になりますが、引率の先生方をはじめ、留学に関わって下さった方々には心から感謝しています。ありがとうございました。

■ 2年次生 堀田 真帆

この度、MCPHS大学に短期留学した。初めての海外渡航であり、多少の不安はあったが、先生方の手厚いご指導のもと大変充実したものとなった。

主に午前は授業、午後は病院見学や観光といった密なプログラムとなっており、新しい発見の連続であった。その中で幾度となく立ち上がる言語の壁。時に何とも言い難いもどかしさに襲われたが、その壁を越えた時の感動と喜びは何事にも代えがたいものであった。韓国人、中国人留学生との交流

会、MCPHS大学の学生との服薬指導実習では英語を介して互いの文化や医療制度などについて話しあい、視野を大きく広げることができた。

この留学により、留学をやり遂げたという自信を得たと同時に、国境を越えさらにたくさんの人々と交流をもちたいと強く感じた。日々勉学に励み、得た知識を日本にとどまらず、直接間接問わず世界に生かせるよう努力していきたい。

最後になりましたが、今回の留学にあたり大変お世話になりました天ヶ瀬先生、中村先生、国際交流推進室の佐々木さんに厚く御礼を申し上げます。

■ 2年次生 吉岡 ^{きえ} 希恵

この留学で言葉にすることができないほど素晴らしい経験をさせていただきました。英語で授業を受けることは新鮮で毎日どんなことをするのかと楽しみでした。特に有機化学の授業では、それまでに勉強したことと繋がり、先生の質問に対しても答えることができとても面白かったです。調剤や服薬指導を体験する授業では一人一人に丁寧に指導していただき、アメリカの処方箋の内容やデータの管理方法

を知り、とても勉強になりました。どの授業でも慣れてくると自ら質問できるようになり疑問を解決できたときは成長が実感できた瞬間でした。またアメリカの病院を訪問した際には日本との違いに驚かされるばかりでした。設備が素晴らしく、テクニシャンと薬剤師の役割分担を初めて見学することができ薬剤師としての仕事の重要性を実感しました。

アメリカで過ごした1秒1秒が勉強になり私にとって大きな財産となりました。この機会を設けてくださった方々に感謝しています。



MCPHS大学の先生と学生の前でプレゼンテーション



修了証をもらいました（中央は英語の先生）



MCPHSの先生と学生さんと一緒にディスカッション